想定された就職面接不合格場面における反実仮想(2)

- 反実仮想と個人内特性との関連 -

○野口理英子・政本 香

(松山東雲女子大学人文科学部)

キーワード：反実仮想，コーピング，rumination

Relation between counterfactual thinking and traits: In the simulated situation of failing a job-interview.

Rieko NOGUCHI, Kaori MASAMOTO

(Faculty of Human Sciences, Matsuyama Shinonome College)

Key Words: counterfactual thinking, coping, rumination

目 的

反実仮想(Counterfactual thinking: CFT)は、過去の結果への理解や判断といった認知的側面や、後悔や安心などの感情的な側面に関連していると考えられている。本研究では、就職活動場面において大学生が抱く CFT と個人内特性(コーピング, rumination)との関連を検討することを目的とする。rumination に関して、抑うつ症状を悪化させるのは抑うつ症状に対して憂うつに考える brooding であり、抑うつ症状に対して認知的問題解決を行う reflection は抑うつ症状の軽減につながる事が報告されていることから(野口・藤生, 2005, 2007), rumination を 2 つの下位分類に分け、検討することとする。

方 法

対象者および実施方法：私立女子大学に在籍する大学生 200 名であった。このうち、191 名(平均年齢=20.79, $SD=4.97$)を分析の対象とした。

質問紙：

シナリオ 想定された就職面接不合格場面における反実仮想(1)と同じ。

CFT 項目 CFT の方向性(上向き・下向き)ならびに帰属性(外的・内的)それぞれの側面を含む 4 項目(CFT1: 内・上, CFT2: 外・下, CFT3: 内・下, CFT4: 外・上)。

コーピング 神村・海老原・佐藤・戸ヶ崎・坂野(1995)による TAC-24(Tri-Axial Coping Scale)を用いた。「情報収集」「放棄・諦め」「肯定的解釈」「計画立案」「回避的思考」「気晴らし」「カタルシス」「責任転嫁」の 8 つの下位尺度に分類される。各尺度は 3 項目、計 24 項目で構成される。4 件法で回答を求めた。

rumination 尺度 野口・藤生(2008)で作成された尺度を用いた。Nolen-Hoeksema, Larson, & Grayson(1999)の Ruminative Responses Scale をもとに、reflection と brooding 各 5 項目を追加して作成された。4 件法で回答を求めた。

結果と考察

1. CFT と個人内特性との関連

コーピングおよび rumination について各下位尺度の得点を算出し、CFT の各項目得点との相関分析を行った(Table1)。「計画立案」「肯定的解釈」「reflection」「brooding」の得点が高いほど CFT3 の得点が高く、「カタルシス」の得点が高いほど CFT4 の得点が高かった。

(2)個人内特性が CFT に与える影響

個人内特性が各 CFT をどの程度説明するのかを検討するために、コーピング, rumination それぞれを説明変数、CFT 各項目得点を目的変数とした重回帰分析を行った(forward のステップワイズ法、コーピング：Table2, rumination：Table3)。コーピングに関して、

Table1 CFT, コーピング, rumination の相関

	CFT1	CFT2	CFT3	CFT4
コーピング				
情報収集(191)	-.013	-.083	.050	.045
計画立案(191)	-.023	-.107	.149*	-.085
カタルシス(191)	.045	.049	.009	.174*
放棄諦め(191)	.053	.039	-.081	.099
責任転嫁(191)	-.039	.014	-.044	.135
肯定的解釈(191)	-.052	-.021	.242**	.061
回避的思考(191)	.045	-.077	.122	-.058
気晴らし(190)	.033	-.045	.085	-.005
rumination				
reflection(187)	.057	.134	.172*	.125
brooding(183)	-.062	.123	.208**	.076

$N = ()$ ** $p < .01$, * $p < .05$

「肯定的解釈」「責任転嫁」は CFT3 に有意な影響を与えていた ($F_{(3, 186)}=5.52, p < .01$)。「責任転嫁」「カタルシス」「回避的思考」は CFT4 に有意な影響を与えていた ($F_{(4, 189)}=3.45, p < .01$)。rumination に関して、reflection は CFT2 に有意な影響を与えていた ($F_{(1, 182)}=3.01, p < .10$)。brooding は CFT3 に有意な影響を与えていた ($F_{(1, 182)}=8.21, p < .01$)。以上の結果から、個人内特性が就職面接不合格場面における CFT を予測することが示唆された。本研究では個人内特性を扱ったが、今後は実際の就職面接不合格場面後に生起するコーピングや rumination について検討していく必要がある。

Table2 コーピングを説明変数、CFT 各得点を目的変数とした重回帰分析

	CFT3	CFT4
	β	β
肯定的解釈	.13**	
責任転嫁	-.10*	.11*
カタルシス		.10*
回避的思考		-.08†
R^2	.08	.07
調整済み R^2	.07	.05

Table3 rumination を説明変数、CFT 各得点を目的変数とした重回帰分析

	CFT2	CFT3
	β	β
reflection	.13†	
brooding		.20**
R^2	.02	.04
調整済み R^2	.01	.04